

令和3年度教育研究活動報告書

氏名	藤本真理子	所属	芸術文化学部日本文学科
学位	博士(文学)	職位	准教授
専門分野	日本語学(古典)		

I 教育活動	
本年度担当科目	
	授業科目
学部	日本語史、日本語学基礎演習、古典語学専門演習、卒業論文(構想・準備)(制作)、日本語学講義1(古典語)、日本語学講義3(古典語)
II 研究活動	
現在の研究テーマ(3つまで)	
(1) 文献方言史	
(2) 文法	
(3) 指示詞	
本年度を含む過去3年間の研究業績 R3・R2・R1	
R3	<p>〈論文〉「日本語指示詞の変容―聞き手の存在と結びついた「そ」―」『日本語の歴史的対照文法』(編者 野田尚史、小田勝)、単著、和泉書院、pp.137-156、査読無、令和3年6月</p> <p>〈論文〉「学生の言語運用能力のパフォーマンス評価―「研究発表」のルーブリックから―」『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第21号、pp.81~89、尾道市立大学、共著、令和4年3月</p> <p>〈論文〉「学科教育課程の現状と課題―初年次学修データの分析から―」『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第21号、pp.91~96、尾道市立大学、共著、令和4年3月</p> <p>〈論文〉「パロディとは―『浮世風呂』を例に似ているということを考える―」『尾道市立大学地域総合センター叢書』11、pp.4-7、令和3年12月</p> <p>〈論文〉「地域の会報にあらわれる方言談話―『三訪会会報』広島県尾道市三成地区を中心に―」『談話会会報』pp.1-16、尾道市立大学芸術文化学部日本文学科、令和4年2月</p> <p>〈発表〉「指示副詞の形態素分析―ヨウニ・フウニ―」第15回若手研究者の会、令和4年3月18日</p> <p>〈ポスター発表〉「【ことばの扉】有標(marked) VS無標(unmarked)」第13回おのみち文学三昧、尾道市立大学日本文学会、Zoom開催、令和3年12月11日</p>
R2	<p>〈著書〉「指示詞」『日本語文法史キーワード事典』ひつじ書房、pp.51-52、令和2年12月</p> <p>〈論文〉「地域のことはどのようにして残るか―『三訪会会報』を資料のひとつに―」『尾道文学談話会会報』第11号、pp.19-26、尾道市立大学、令和3年2月</p> <p>〈論文〉「学科専門教育課程における「学びのプラットフォーム」構築の試み―学修データベースの構築と活用可能性に着目して―」『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第20号、pp.136-139、尾道市立大学、共著、令和3年3月</p> <p>〈発表〉「呼びかけの助詞「ヨ」の変遷―返事を期待しない働きとその特徴―」、第12回おのみち文学三昧、尾道市立大学日本文学会、Zoom開催、令和2年12月5日</p>
R1	<p>〈書評〉「学界展望 日本語の歴史的研究 2018.7-2018.12」花鳥社、ホームページ掲載、令和1年10月31日</p> <p>〈報告書〉「絵を語る作家たち―近代日本における絵画と文学のあいだ―」『尾道文学談話会会報』、尾道市立大学日本文学科、共著、令和2年3月</p> <p>〈報告書〉「4月13日開催「沈黙研究会」@MOU尾道市立大学美術館 報告書」『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第19号、尾道市立大学、共著、令和2年3月</p> <p>〈報告書〉「平成三十年度公開講座 田島恵介氏「ことばの扉―いいかげんな漢字―」の報告」『尾道文学談話会会報』、尾道市立大学日本文学科、共著、令和2年3月</p> <p>〈発表〉「し系指示詞による事態カテゴリーの指示」第11回若手研究者の会、令和1年9月5日</p> <p>〈報告〉「2019年度指示詞実験報告」、尾道で「ことばの会」、令和1年12月1日</p>
H30以前の主な研究業績	
(1) 〈著書〉『〈役割語〉小辞典』(編者 金水敏)、執筆分担担当、研究社、平成26年9月	
(2) 〈著書〉『グループワークで日本語表現力アップ』、共著(野田春美・岡村裕美・米田真理子・辻野あらと・藤本真理子・稲葉小由紀)、ひつじ書房、平成28年3月	
(3) 〈著書〉『ココが面白い!日本語学』(編者 岡崎友子・堤良一・松丸真大・岩田美穂)、執筆担当、ココ出版、平成29年4月	
(4) 〈論文〉「もの言う動物―キャラクターとしての動物のイメージ―」共著 平成26年12月、『語文』第103輯、大阪大学国語国文学会、〈共同研究者〉岩田美穂・藤本真理子、pp.43-54、査読有	
(5) 〈論文〉「〈聞き手領域〉に関わるア系列の指示―中世を中心に―」『日本語文法史研究』3、ひつじ書房、平成28年12月、査読無	

(6) <論文> 「現実世界の対象を表さないソの指示—歴史的変遷をとおして—」 『語用論フォーラム2』、ひつじ書房、平成29年12月、査読無
(7) <論文> 「中古の力(ア)系列とソ観念指示用法—古典語における知識の切り替わりから—」 『バリエーションの中の日本語史』(編者 岡崎友子・衣畑智秀・藤本真理子・森勇太)、くろしお出版、平成30年4月、査読無
(8) <論文> 「指示副詞の形式と意味—古典語・甕島方言を通して—」(『鹿児島県甕島方言からみる文法の諸相』(編者 窪園晴夫、木部暢子、高木千恵)、単著、平成31年2月、くろしお出版、査読無
(9) <発表> 「ソ系列指示詞と不定語との関連—中古・中世を中心に—」 日本言語学会、名古屋大学、平成27年11月、査読有
(10) <発表> 「古典語におけるソ系とア系の切り替わり—中古—」 バリエーションの日本語史[シンポジウム1] 「日本語指示詞における地理的・歴史的変異の研究」、平成28年4月
(11) <発表> 「高等学校生徒による方言教材作成—(篠山弁)を事例として—」(ブース発表 方言に関する教育活動) 日本方言研究会、平成29年5月、共同発表、査読有
(12) <発表> 「古典語・現代の文脈指示と文体」(日本語文法研究のフロンティア—文法史研究・通時的対照研究を中心に—) 国立国語研究所プロジェクト「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」平成31年1月13日、NINJALシンポジウム、招待
学会、所属団体における活動 (本年度を含む過去3年間の研究業績) R1・R2・R3
所属学会・所属団体 役職等と任期
日本語学会(庶務委員:平成24年5月~平成25年4月) 日本語学会(広報委員:平成30年4月~令和2年3月) 日本語文法学会 関西言語学会 土曜ことばの会(事務局員:平成24年3月~現在に至る)
IV 社会活動
1. 学外活動(本年度1年間の活動状況)
(1) 第10回尾道マンガ大賞作品の審査
(2) 「おのみち文学三昧」ゲスト講師の対応
(公開講座・後援会・出前授業に関するもの、その他特記事項があれば記入) ●講演会「地域のことはどのようにして残るか—『三訪会会報』を資料のひとつに—」(三成学区の歴史と備後地方の自然探訪教室)※令和3年6月20日実施予定であったが、社会状況に応じて実施が困難であると双方で判断し、令和4年度に同内容で実施する話を進めている。 ●教員免許状更新講習の講師として、オリエンテーションおよび「擬音語・擬態語から言語学を考える」の講義(90分)を実施し、内容をまとめ、教職支援センターによる紀要の「あとがきにかえて」にて報告した。 ●令和3年12月11日実施の第13回「おのみち文学三昧」のゲスト講師として植田千佳穂氏(奥田元宋・小由女美術館館長・三次市学芸アドバイザー)を選定し、依頼を行い、事前の打ち合わせを含め、対応した。 ●令和3年9月13日実施の「フィールドワーク事前学習」のゲスト講師を、小泉凡氏(小泉八雲記念館館長)に依頼し、「小泉八雲と神々の国の首都~443日の軌跡を追って~」の題目で講演を開いた。